

### Ⅲ 結婚観

#### 1 結婚観について

問7 結婚に関する次の考え方について、あなたの考えに最も近いものを1つだけ選んでください。  
 (○は1つだけ)【ここでの結婚は事実婚を含みます。】

女性では、「結婚する、しないは個人の自由である」(40.2%)が最も多く、次いで「家庭を持ち、子どもをもつことは自然のことである」(31.8%)、「精神的にも経済的にも安定する」(15.7%)の順となった。

男性では、「家庭を持ち子どもをもつことは自然のことである」(46.4%)、次いで「結婚する、しないは個人の自由である」(20.9%)、「精神的にも経済的にも安定する」(20.7%)の順となった。

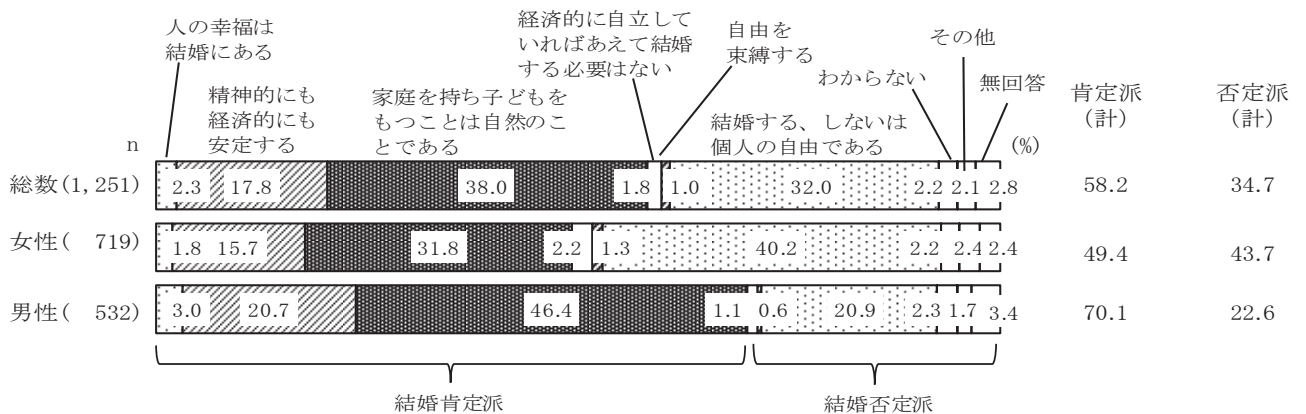
結婚に対しては、男性の方が肯定的に考える人が多く、女性の方が結婚にとらわれていない傾向が見られる。

※『結婚肯定派』は、調査票選択肢の「人の幸福は結婚にある」、「精神的にも経済的にも安定する」、「家庭を持ち子どもをもつことは自然のことである」を合計したもの。

『結婚否定派』は、調査票選択肢の「経済的に自立していればあえて結婚する必要はない」、「自由を束縛する」、「結婚する、しないは個人の自由である」を合計したもの。

以降の頁も同様。

図7-1 結婚観について (性別)



## 結婚観について

### 【性別】

前頁参照。

### 【地域別】

女性では、『結婚肯定派』は能登北部（61.1%）で最も多く、『結婚否定派』は石川中央（46.1%）が最も多くなっている。

男性では『結婚肯定派』がいずれの地域も6～7割を占めた。

### 【年代別】

女性では、『結婚肯定派』は60歳以上（65.3%）と最も多く、『結婚否定派』は30代（62.4%）で最も多くなっている。

男性では、『結婚肯定派』は60歳以上（83.3%）と最も多く、『結婚否定派』は20代（56.4%）で最も多くなっている。

### 【未既婚別】

女性では、有配偶者で『結婚肯定派』（49.4%）と『結婚否定派』（43.8%）がともに4割台となっている。離死別では『結婚肯定派』（66.3%）が多く、未婚では『結婚否定派』（67.4%）が多くなっている。

男性では、有配偶者では『結婚肯定派』（77.4%）が多くなっている。離死別でも『結婚肯定派』（54.3%）が多く、未婚では『結婚否定派』（44.8%）が多くなっている。

### 【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識と結婚観との関係を見たところ、男女とも固定的性別役割分担に賛成である場合、『結婚肯定派』（65.1%）が多くなっている。女性では、固定的性別役割分担に賛成しない人で『結婚否定派』（49.2%）が『結婚賛成派』（44.2%）より多くなった。男性では、固定的性別役割分担に賛成しない人でも『結婚賛成派』（67.2%）が『結婚否定派』（29.7%）より多くなっている。

### 【平成22年度調査との比較】

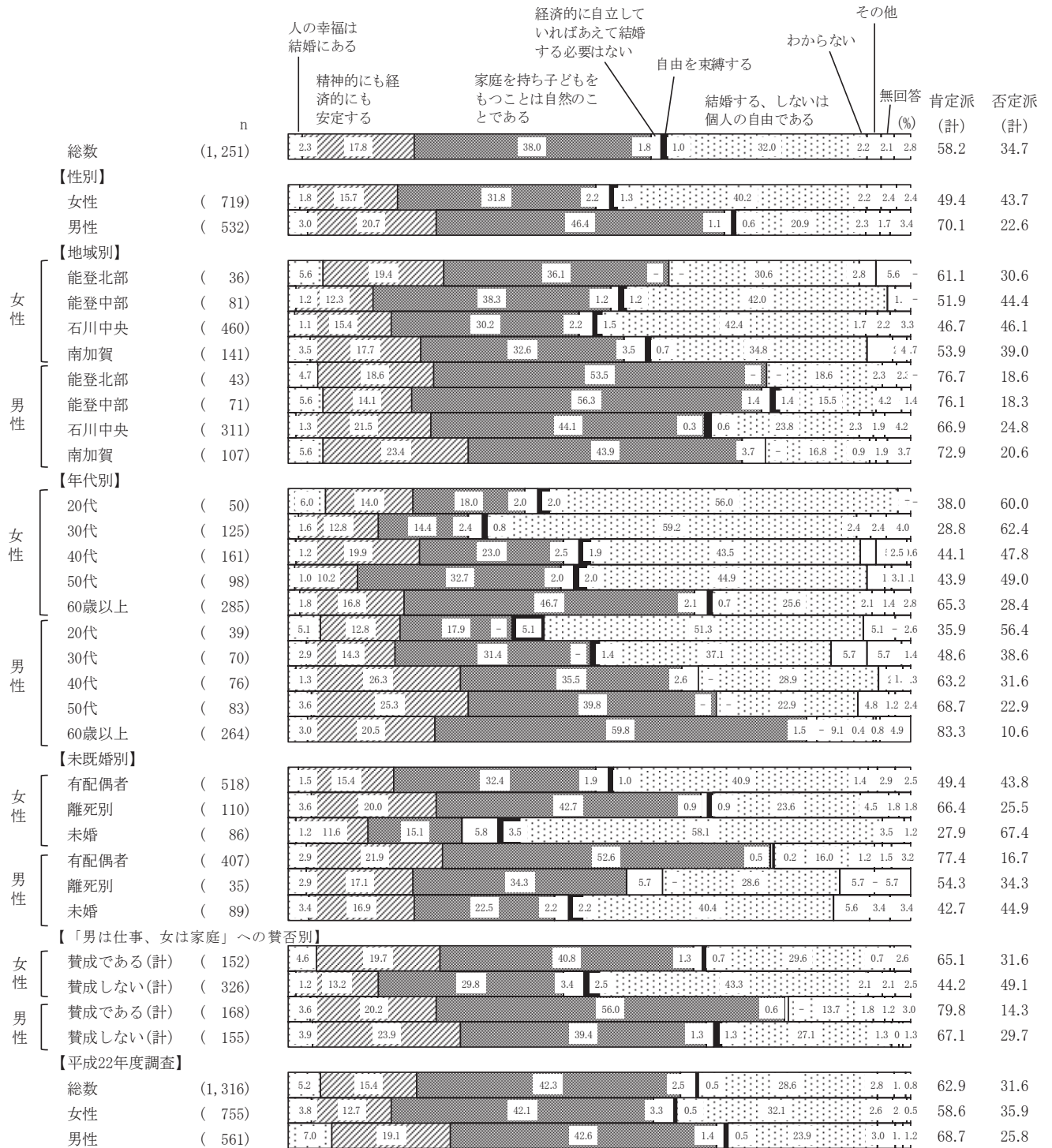
女性では、『結婚肯定派』が9.3ポイント減少し、『結婚否定派』が7.8ポイント増加した。

男性では、『結婚肯定派』が1.4ポイント増加し、『結婚否定派』は3.2ポイント減少した。

（平成22年度調査は回答選択肢が異なるものがあること等から厳密な比較はできない）

図7-2 結婚観について

(性別、地域別、年代別、未既婚別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成22年度調査結果)



## 2 離婚観について

問8 離婚に関する次のような考え方をどう思いますか。(a)、(b) それぞれについて最もあてはまるものを1つずつ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

(a) 相手に満足できないときは離婚すればよい

女性では、「そう思う」(10.0%)、「どちらかといえばそう思う」(26.3%)、を合わせた『そう思う(計)』が36.3%となった。「そうは思わない」(30.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(19.2%)を合わせた『そう思わない(計)』は49.7%となり、『そう思う(計)』より13.4ポイント多くなっている。

男性では、「そう思う」(11.5%)、「どちらかといえばそう思う」(17.9%)、を合わせた『そう思う(計)』が29.3%となった。「そうは思わない」(32.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(24.8%)を合わせた『そう思わない(計)』は57.3%となり、『そう思う(計)』より28ポイント多くなっている。

『そう思う(計)』では女性が男性を7ポイント上回り、『そう思わない(計)』では男性が女性より7.6ポイント多くなっている。

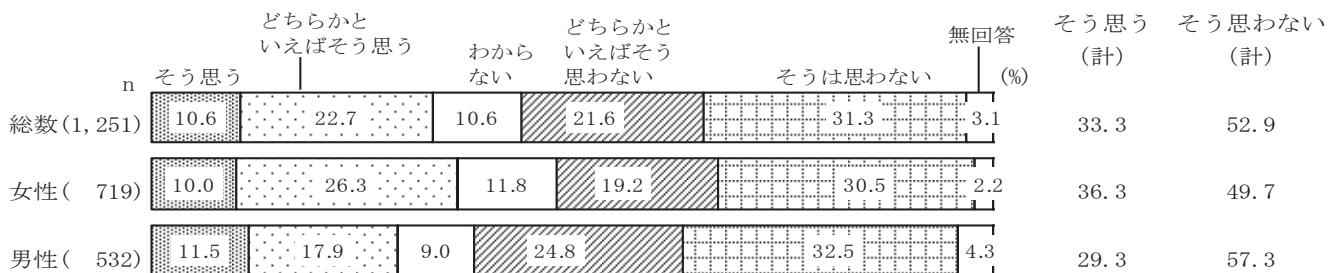
※『そう思う(計)』は、調査票選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計したもの。

『そう思わない(計)』は、調査票選択肢の「そうは思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計したもの。

以降の頁も同様。

図8-1 離婚観について

(a) 相手に満足できないときは離婚すればよい (性別)



## 離婚観について

### (a) 相手に満足できないときは離婚すればよい

#### 【性別】

前頁参照。

#### 【地域別】

女性では、『そう思う（計）』は能登北部（41.7%）が最も多く、次いで石川中央（38.0%）で多くなっている。

男性では、『そう思わない（計）』は能登北部（62.8%）が最も多く、次いで南加賀（60.7%）で多くなっている。

#### 【年代別】

女性では、『そう思う（計）』は20代（54.0%）で最も多く、『そう思わない（計）』は60歳以上（56.8%）で最も多くなっている。

男性では、30代を除く年代で『そう思わない（計）』が5割を超えている。

#### 【未既婚別】

女性では、『そう思わない（計）』は有配偶者（51.4%）で最も多く、『そう思う（計）』は未婚（44.2%）で最も多くなっている。

男性では、『そう思わない（計）』は有配偶者（60.7%）で最も多く、『そう思う（計）』は離死別（57.1%）で最も多くなっている。

#### 【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

女性では、固定的性別役割分担に賛成の場合、『そう思わない（計）』（60.5%）の方が多く、固定的性別役割分担に賛成しない場合、『そう思う（計）』（45.1%）の方が多くなっている。

男性では、固定的性別役割分担への賛否による違いは見受けられない。

#### 【平成22年度調査との比較】

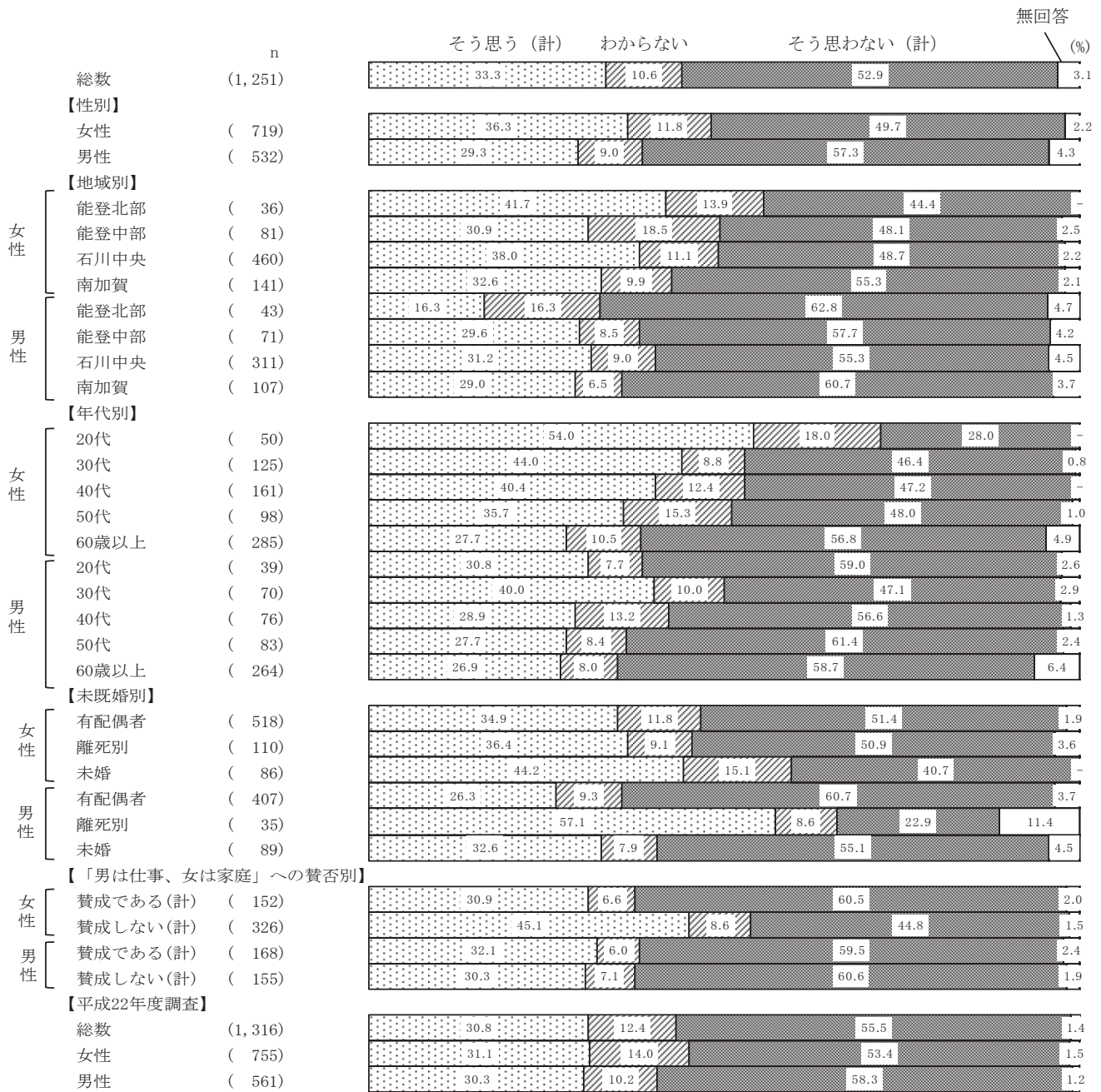
女性では、『そう思う（計）』が5.2ポイント増加し、『そう思わない（計）』は3.7ポイント減少した。

男性では、『そう思う（計）』、『そう思わない（計）』がそれぞれ1ポイント減少した。

図8-2 離婚観について

(a) 相手に満足できないときは離婚すればよい

(性別、地域別、年代別、未既婚別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成22年度調査結果)



## 離婚親について

### (a) 相手に満足できないときは離婚すればよい

#### 【経年比較】

男性では『そう思わない（計）』がほぼ5割前後で推移しているが、女性では、『そう思う（計）』、『そう思わない（計）』がともに5ポイント前後の増域となっており、今回調査では、平成17年度と同程度の水準の結果となっている。

図8-3 離婚親について

### (a) 相手に満足できないときは離婚すればよい（経年比較）

	n	割合 (%)					そう思う (計)	そう思わない (計)	
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	わから ない	どちらかといえ ばそう 思わない	そうは思 わない			
女性	今回調査 (719)	10.0	26.3	11.8	19.2	30.5	2.2	36.3	49.7
	平成22年度調査 (755)	9.3	21.9	14.0	22.9	30.5	1.5	31.1	53.4
	平成17年度調査 (654)	9.3	29.2	13.0	19.0	29.5	-	38.5	48.5
	平成12年度調査 (696)	11.1	29.0	13.9	18.2	27.7	-	40.1	46.0
	平成7年度調査 (764)	10.2	26.3	19.2	23.3	20.9	-	36.5	44.2
	平成2年度調査 (1,106)	9.8	28.7	17.1	19.0	25.5	-	38.6	44.5
昭和60年度調査 (855)	8.4	23.0	7.9	25.5	35.2	-	31.4	60.7	
男性	今回調査 (532)	11.5	17.9	9.0	24.8	32.5	4.3	29.3	57.3
	平成22年度調査 (561)	9.3	21.0	10.2	20.7	37.6	1.2	30.3	58.3
	平成17年度調査 (547)	10.2	21.4	12.8	19.9	35.6	-	31.6	55.6
	平成12年度調査 (609)	9.5	26.6	13.1	19.2	31.5	-	36.1	50.7
	平成7年度調査 (553)	10.7	23.1	11.4	24.2	30.6	-	33.8	56.8
	平成2年度調査 (389)	11.1	27.5	14.1	18.0	29.3	-	38.6	47.3

### 3 離婚観について

#### (b) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である

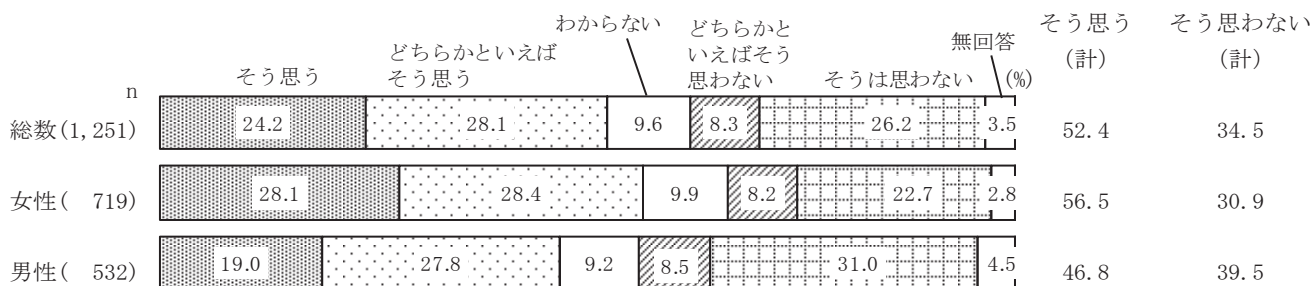
女性では、『そう思う (計)』が56.5%、『そう思わない (計)』は30.9%となり、『そう思う (計)』が25.6ポイント多くなっている。

男性では、『そう思う (計)』が46.8%、『そう思わない (計)』は39.5%となり、『そう思う (計)』が7.3ポイント多くなっている。

『そう思う (計)』では女性の方が9.7ポイント多く、『そう思わない』では男性の方が8.6ポイント多くなっている。

図8-4 離婚観について

#### (b) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である (性別)





## 離婚観について

### (b) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である

#### 【性別】

前頁参照。

#### 【地域別】

女性では、『そう思う（計）』は能登中部（59.3%）が最も多く、次いで石川中央（57.8%）、南加賀（53.2%）の順で多くなっている。

男性では、『そう思う（計）』は石川中央（51.1%）が最も多く、『そう思わない（計）』は能登北部（58.1%）で最も多くなっている。

#### 【年代別】

女性では、『そう思う（計）』は20代（60.0%）、30代（66.4%）で最も多く、『そう思わない（計）』は、年代とともに多くなる傾向がある。

男性では、『そう思わない（計）』が30代（47.1%）で最も多く、『そう思う（計）』は、60歳以上（50.8%）で最も多くなっている。

#### 【未既婚別】

女性では、全ての層で『そう思う（計）』が5割を超えており、『そう思わない（計）』は3割台となっている。

男性では、『そう思う（計）』が有配偶者と未婚で4割を超えており、『そう思わない（計）』が離死別（57.1%）で最も多くなっている。

#### 【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

女性では、『そう思う（計）』は固定的性別役割分担に賛成しない人（62.9%）で多くなっている。

男性では、『そう思わない（計）』は、固定的性別役割分担に賛成しない人（41.3%）で多くなっている。

#### 【平成22年度調査との比較】

女性では、『そう思う（計）』は4.8ポイント増加し、『そう思わない（計）』は1.6ポイント減少した。

男性では、『そう思う（計）』は6ポイント増加し、『そう思わない（計）』は5.4ポイント減少した。

図8-5 離婚観について

(b) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である

(性別、地域別、年代別、未既婚別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成22年度調査結果)

		n	そう思う (計)	わからない	そう思わない (計)	無回答 (%)
総数		(1,251)	52.4	9.6	34.5	3.5
【性別】						
女性		(719)	56.5	9.9	30.9	2.8
男性		(532)	46.8	9.2	39.5	4.5
【地域別】						
女性	能登北部	(36)	47.2	13.9	30.6	8.3
	能登中部	(81)	59.3	6.2	33.3	1.2
	石川中央	(460)	57.8	9.8	30.2	2.2
	南加賀	(141)	53.2	11.3	31.9	3.5
男性	能登北部	(43)	20.9	14.0	58.1	7.0
	能登中部	(71)	42.3	12.7	42.3	2.8
	石川中央	(311)	51.1	9.0	35.7	4.2
	南加賀	(107)	47.7	5.6	41.1	5.6
【年代別】						
女性	20代	(50)	60.0	14.0	26.0	-
	30代	(125)	66.4	4.8	28.0	0.8
	40代	(161)	61.5	9.9	28.0	0.6
	50代	(98)	58.2	10.2	31.6	-
	60歳以上	(285)	48.1	11.2	34.4	6.3
男性	20代	(39)	41.0	15.4	41.0	2.6
	30代	(70)	38.6	12.9	47.1	1.4
	40代	(76)	46.1	9.2	44.7	-
	50代	(83)	44.6	8.4	43.4	3.6
	60歳以上	(264)	50.8	7.6	34.5	7.2
【未既婚別】						
女性	有配偶者	(518)	58.3	10.0	30.7	1.0
	離死別	(110)	50.9	8.2	30.9	10.0
	未婚	(86)	55.8	11.6	32.6	-
男性	有配偶者	(407)	49.9	9.1	36.9	4.2
	離死別	(35)	28.6	8.6	57.1	5.7
	未婚	(89)	40.4	10.1	44.9	4.5
【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】						
女性	賛成である(計)	(152)	55.3	9.2	29.6	5.9
	賛成しない(計)	(326)	62.9	5.8	30.4	0.9
男性	賛成である(計)	(168)	50.6	10.1	37.5	1.8
	賛成しない(計)	(155)	51.6	5.2	41.3	1.9
【平成22年度調査】						
総数		(1,316)	47.0	12.9	37.7	2.3
女性		(755)	51.7	13.5	32.5	2.4
男性		(561)	40.8	12.1	44.9	2.1

## 離婚観について

### (b) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である

#### 【経年比較】

女性では昭和60年度調査以降、『そう思う（計）』が『そう思わない（計）』を常に上回っている。『そう思う（計）』は平成7年度調査以降、一貫して増加傾向にある。

男性では平成12年度調査以降、『そう思わない（計）』が『そう思う（計）』を上回ってきたが、今回の調査では平成12年度調査以来はじめて『そう思う（計）』が上回った。

図8-6 離婚観について

### (b) 今の社会では離婚すると女性の方が不利である（経年比較）

